

学校教育目標

創 【未来と拓く】

～輝く瞳、笑顔とあいさつ、光る汗～
めざす生徒像

「考え、行動し、夢をもって成長する」生徒

- (1) 学び合い、高め合う生徒⇒輝く瞳・・・(知)
- (2) 認め合う、心豊かな生徒⇒笑顔とあいさつ・・・(徳)
- (3) 心身共に健康な、たくましい生徒⇒光る汗・・・(体)

校訓 自分らしさと光らせて

めざす学校像

- (1) 学力向上に努める学校
- (2) あいさつと歌声が響く学校
- (3) 安全で安心してすごせる学校
- (4) 地域とともに歩み、信頼される学校



失敗なしで、成功する人間なんていない。

北海道にある旭山動物園は、日本で一番北にある動物園です。1年の半分近くを雪に閉ざされてしまいますが、とても人気があり、1年に165万人もの人が訪れます。ところが、今から20数年前は、お客さんがどんどん減っていき、閉園の噂さえさやかれていたのです。そのどん底状態だった動物園に、園長として就任したのが、小菅正夫さんでした。

旭山動物園にいる150種類ほどの動物は、どこの動物園にもいる動物です。パンダのような珍しい動物はいません。でも、小菅園長は動物たちの生き生きとした姿が大好きでした。そこで、小菅園長は動物園の復活のために「動物たちの生き生きとした姿に、お客さんが感動する理想の動物園を作ろう」と決心しました。ここから、旭山動物園の挑戦が始まりました。

最初の取り組みは、飼育員が担当する動物の解説をする「ワンポイントガイド」や、餌やりの風景を見せる「もぐもぐタイム」でした。もちろん、すぐにうまくいったわけではありません。失敗もたくさんありました。でも、「失敗を恐れずに挑戦しよう。挑戦しなければ、未来は切り拓けない」と小菅園長は動物園の人たちに語り続けました。

しばらくすると、見知らぬ人にガイドしているお客さんや初めて来た友だちを案内しながら歩いているお客さんの姿を見かけるようになりました。

何よりも、動物の生き生きとした姿に喜び、笑顔のお客さんが増えたのです。自信を得た小菅園長は、飼育員とアイディアを出し合い、動物の素晴らしい姿を見ることが出来る施設をいくつもつくりました。

空を飛ぶようなすごいスピードで、ペンギンが水中を泳ぎ回るペンギン館、透明な円柱のトンネルをアザラシが気持ちよさそうに泳ぐアザラシ館。他にもたくさんありますが、そのどれもが失敗を繰り返しながらつくりあげたものなのです。

理想の動物園をつくろうという取り組みは、今も続いています。そこにたどり着くには、長い年月がかかるでしょうし、終わりのない挑戦かも知れません。でも、小菅園長はこうも言っています。「努力は報われないかも知れません。しかし、努力をしなければ絶対に何も生まれません。未来のことなんて、やってみなければわからないことばかり。だから、失敗しながら進んでいくしかないのです。失敗なしで、成功する人間なんていないのですから。」

失敗は、成功への入口です。迷ったときこそ、やってみることが大切です。行動を起こさない限り未来を切り拓き、希望を実現することはできません。うまくいかなかった希望は、考え直したり修正を重ねたりすることで、新たな希望へと生まれ変わることができるのです。～偉人・著名人の言葉で語る校長講話（教育開発研究所）～

「失敗なしで、成功する人間なんていない。」本校の生徒も失敗を恐れずに夢や希望に向かって力強く前進していってくれることを願っています。

職員室前廊下掲示物



生活安全委員長の神野美月さんと美術部部長石田華愛さんを中心に、本校学区の主な避難場所の地図を作成してくれました。